

『のび太』という生きかた』を読んで

弘前市立福村小学校

相馬 万生

私が知^{わたし}っている「ドラえもん」の主人公のび太という人物は、いつもいじめられていて、ドラえもんの道具にたよってばかりです。

でも、この本を読んだ後、のび太を見る目が180度変わりました。

その一つは、「ひみつ道具や、ドラえもんの力で、のび太は成長してきた」のところ、「道具を使うと、キリがない！ボクなりにがんばっていくよ。」とけっこう心していることから、最後は自分の力でやり通すことを決めました。それを見て、道具を使うけども、自分なりにやりぬく力を持っている人なんだと思いました。

次に、「有能^{のう}でも、やさしさがなければ敵^{てき}を作ってしまう」のところ、たしかにのび太は弱いけど、だれにでもやさしく、人間以外にもやさしい心を持つ人物だと思えます。だから、いじめられていても、最後には相手をゆるし、なにかしら学んでいるから、のび太を本気でにくむ人がいないんだ

と思います。

そして、「失敗したら再^まチャレンジするだけ」のところでは、ひみつ道具は、いつでもうまく使いこなせる訳^{わけ}ではないが、人のせいにしたりせず、あきらめることなく失敗を何度くり返しても、つねに前向きに行動するのび太は、実は努力家でもありチャレンジ精神^{せいしん}がすごい人でもあるんだと思います。

私が一番感心^{せきん}したところは、「何に対しても、へん見を持たない」です。のび太のやさしさは、人だけに向けられるものではなく、動物や植物にも向けられています。私だったら、ちよつとしたところで友達や物にへん見を持つてしまうことがあります。

たとえば、見た目がハデに見える友達には声をかけづらいです。だけど、話してみると意外とやさしくてホッとして楽しかった経験^{けいけん}があります。その時も、人を見た目ではんだんせずに、まずは話してみることから始めようと思いました。

この本を読み終わった後、のび太という人物に対してのイ

メージがかなり変わりました。私は、のび太のチャレンジ精

神を一番見ならおうと思いました。